



市民活動はじまりのはじまり



子どもたちの笑顔のために おもちゃドクター奮闘中!



壊れたおもちゃに命を吹き込む「おもちゃ病院」では、腕に覚えのあるおもちゃドクターたちがスキルを活かして活動しています。

物を大切にすることを伝える

「はまのおもちゃ病院」は、壊れたおもちゃの治療(修理)をしている七ヶ浜町のボランティア団体です。七ヶ浜町子育て支援センターを会場に開院するほか、町内の親子向けイベントにも参加しています。

治療の流れは、まず受付でのカウンセリング。カルテ(申込書)に壊れたおもちゃの状況などを記入して順番を待ちます。治療時間は30分から1時間ほど。状態によっては入院(一時預かり)する場合もあり、直ったら子育て支援センターで引き渡しになります。治療は無料ですが、部品代がかかる場合もあります。

治療の多くは、動かなくなって放置されていたおもちゃの持ち込みです。コンピューターの基板は治療ができないのでお断りしていますが、基板周辺の線が切れたものや電池が腐食したものは直しが可能です。ところが、この腐食が原因でさびてしまい、そのまま捨てられてしまうものも多いようです。院長の加藤益弘さんは、「おもちゃを捨てる人が多いので、物を大切にしてほしい」と言います。壊れたかなと思ったら、まず中身をチェックすることを勧め、「ある程度の修理はご家庭でもできるのでチャレンジしてほしい」と話します。

「ありがとう」の言葉をやりがいに

在籍するドクターは9人。そのうちの6人は七ヶ浜町社会福祉協議会が開催した「おもちゃドクター養成講座」の受講者です。「もともと電気や機械の仕事をしていた人や趣味が高じた人もいます。皆さん手先が器用です」と加藤さんは話します。

ドクターたちは、おもちゃを分解して故障の原因を探り、必要な処置を施します。時には、どう直したらいいのか頭を悩ますこともあります。「わからないときは、仲間と一緒に考えて知恵を出し合って直しています」と加藤さん。その一方で、「わからないのが面白い!修理中はめちゃくちゃ戦っています!」と楽しそうに手を動かすドクターの姿も。直せたときの喜びはひとしおのようです。

「直ったおもちゃを見た子どもたちの笑顔がうれしい。たまらない」と加藤さんは目を細めます。おもちゃを修理する喜びと子どもたちの「ありがとう」の言葉が、ドクターたちのモチベーションにつながっています。「今後はドクターの養成講座がまた開催できればと思っています。世代交代が必要ですからね」と先を見据えます。

おもちゃの修理を通して、子どもたちと親に「物を大切にすることを」を育んでもらいたいと、はまのドクターたちは願っています。



↑七ヶ浜町の「親子すまいるフェスタ2025」での開院。18個のおもちゃが持ち込まれました。



↑直したおもちゃの引き渡し。みんな笑顔になります!

はまのおもちゃ病院 ドクター募集中!

一緒におもちゃを治療(修理)してくれる人を募集しています。お住まいの市町村は問いません。興味のある方は開院日に見学、または下記の団体ホームページや連絡先までご連絡ください。

次回定期開院日 | 2026年6月12日(金) 10:00 ~ 12:00

会場 | 七ヶ浜町子育て支援センター(宮城郡七ヶ浜町東宮浜字東兼田35-10)

問合せ | はまのおもちゃ病院 / 七ヶ浜町社会福祉協議会 TEL 022-349-7781



ホームページ



「tag(たっぐ)」には、多賀城(tagajo)の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ